

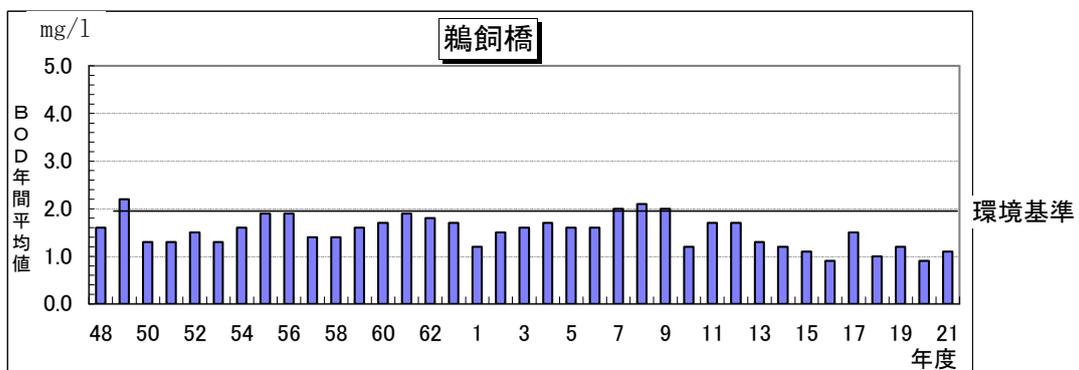
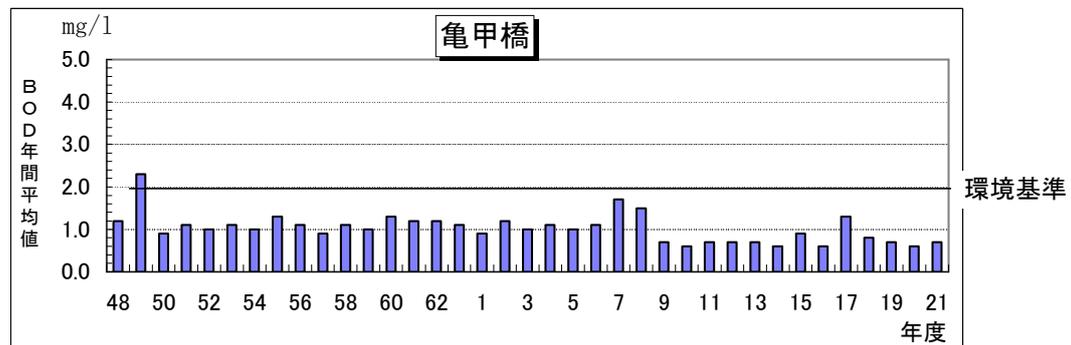
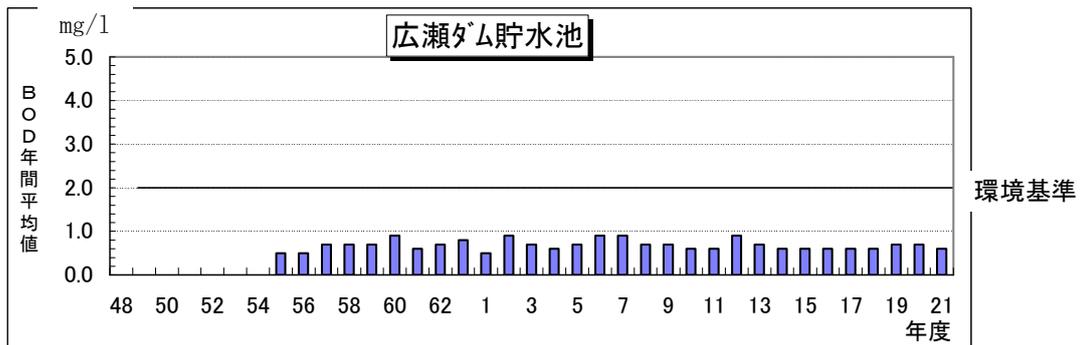
(2) 笛吹川流域

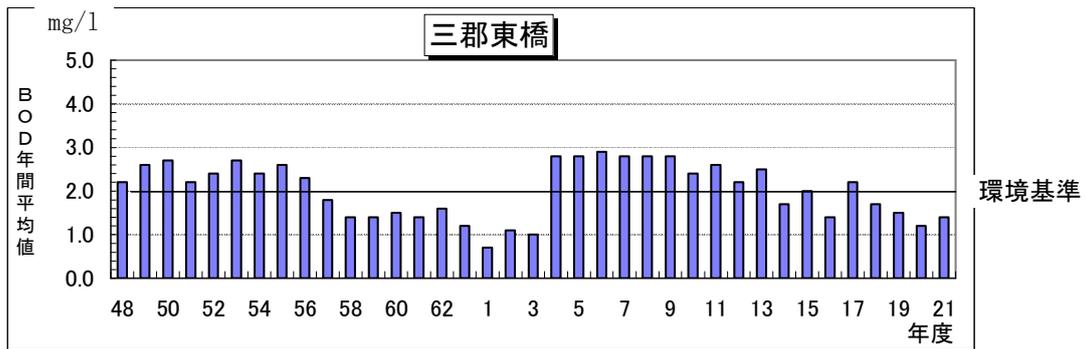
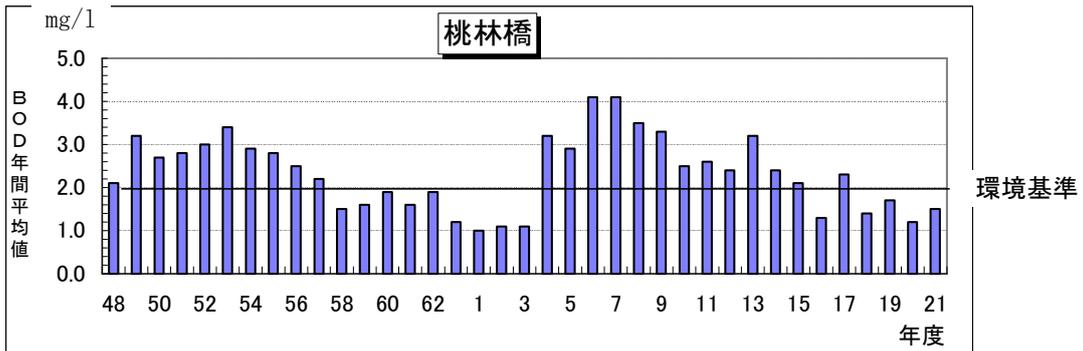
笛吹川流域は、奥秩父に源を発し、甲府盆地を南西方向に流下し、鰍沢付近で富士川に合流する笛吹川本流と、これに注ぐ重川、平等川、荒川などの支流を含む流域である。

ア：笛吹川本流

環境基準は、亀甲橋より上流はA-I類型（BOD2.0mg/ℓ）、それより下流は、A-II類型（BOD2.0mg/ℓ）があてはめられており、結果は、BOD年間平均値で広瀬ダム貯水池0.6mg/ℓ、亀甲橋0.7mg/ℓ、鵜飼橋1.1mg/ℓ、桃林橋1.5mg/ℓ、三郡東橋1.4mg/ℓであった。

笛吹川上中流部の水質は良好であるが、甲府盆地内を流れる支流が合流した後の下流部で水質が悪化する。

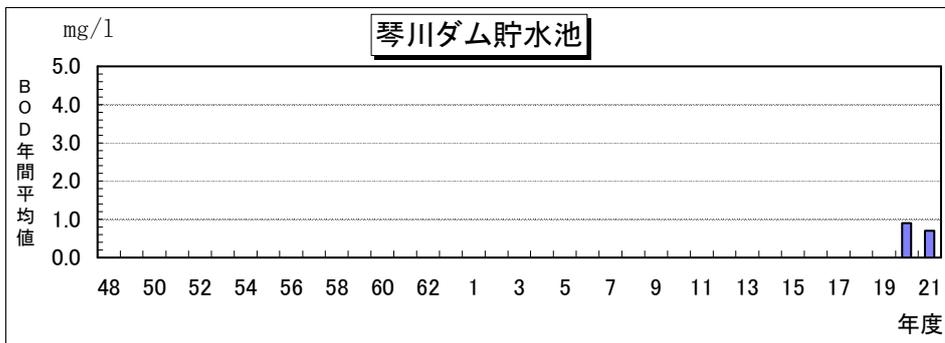




イ：琴川

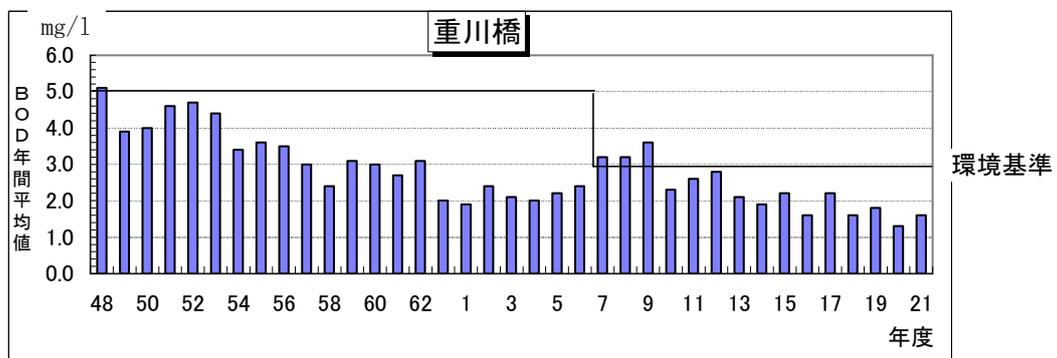
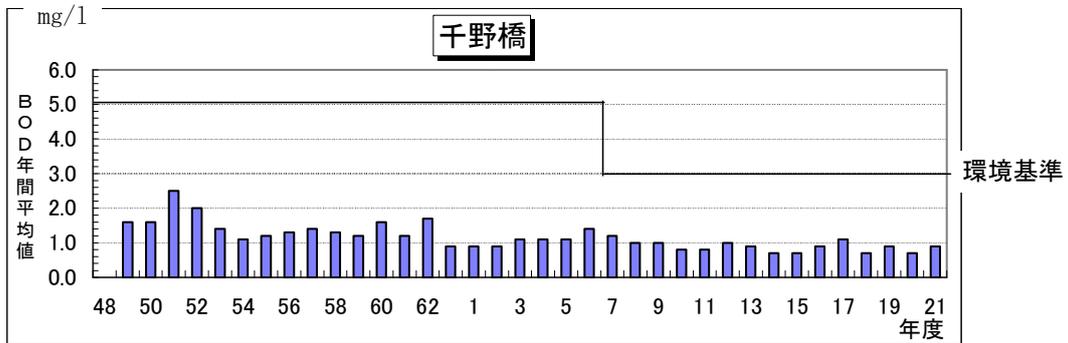
秩父山地に属する奥千丈岳、剣ノ峰などに源を発し、牧丘町を流下し、笛吹川へ注ぐ河川であり、平成20年度から測定を開始している。

結果は、BOD年間平均値で0.7 mg/lであった。



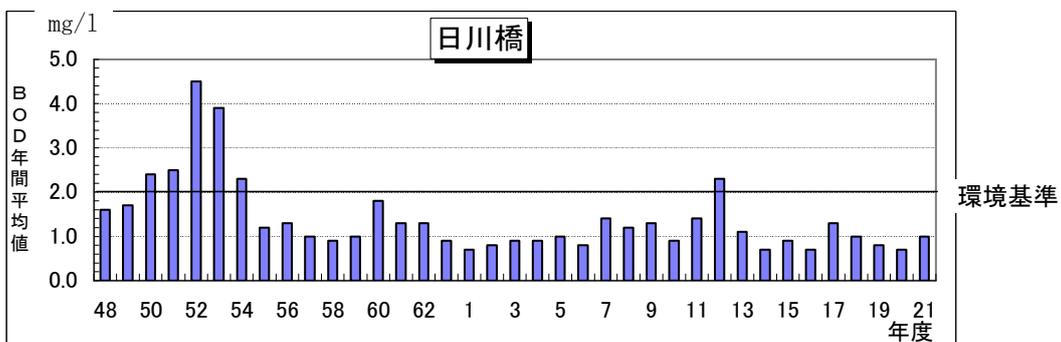
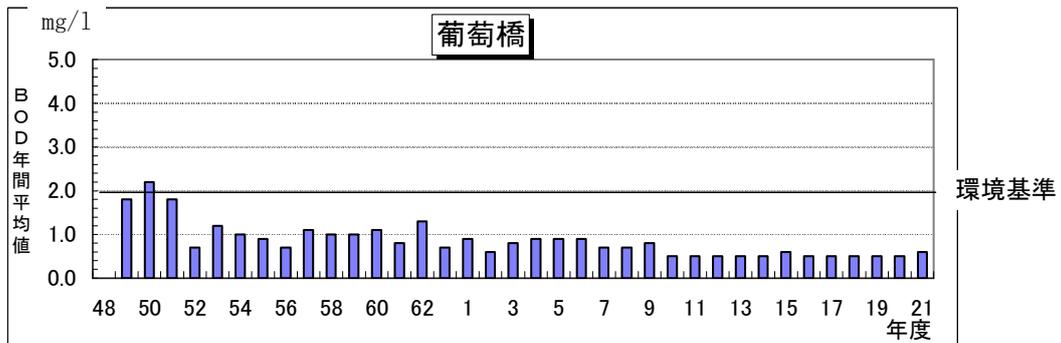
ウ：重川

平成7年度からは、環境基準B-I類型（BOD3.0mg/ℓ）に見直され、結果は、BOD年間平均値で千野橋0.9mg/ℓ、重川橋1.6mg/ℓであった。



エ：日川

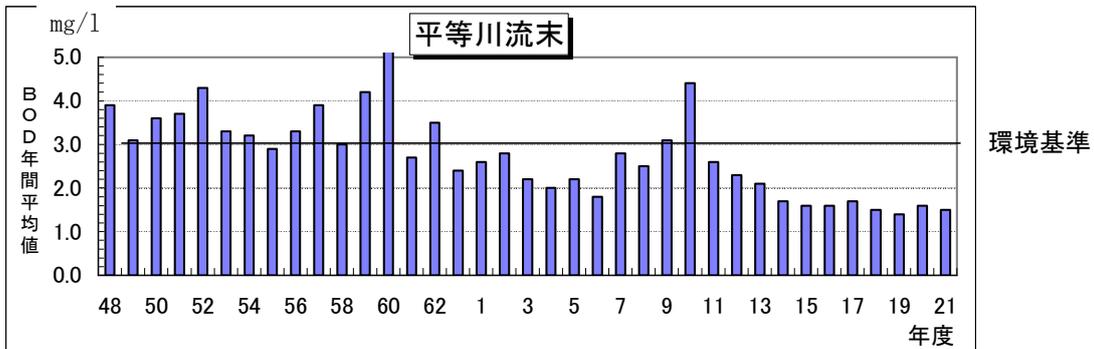
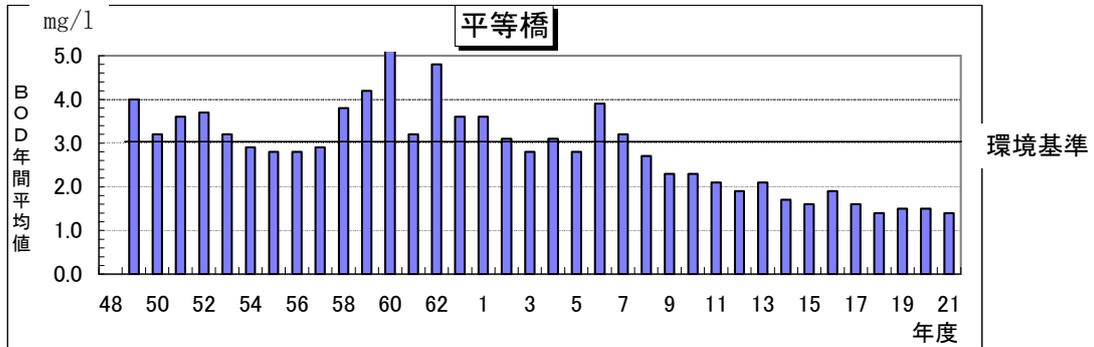
環境基準は、A-I類型（BOD2.0mg/ℓ）が当てはめられており、結果は、BOD年間平均値で葡萄橋0.6mg/ℓ、日川橋1.0mg/ℓであった。



オ：平等川

石和温泉郷の中心部を流下している河川である。環境基準はB-I類型（BOD 3.0mg/l）があてはめられており、結果は、BOD年間平均値で平等橋1.4mg/l、平等川流末1.5mg/lであった。

平等川も、近年、水質改善が進んでいる河川のひとつである。

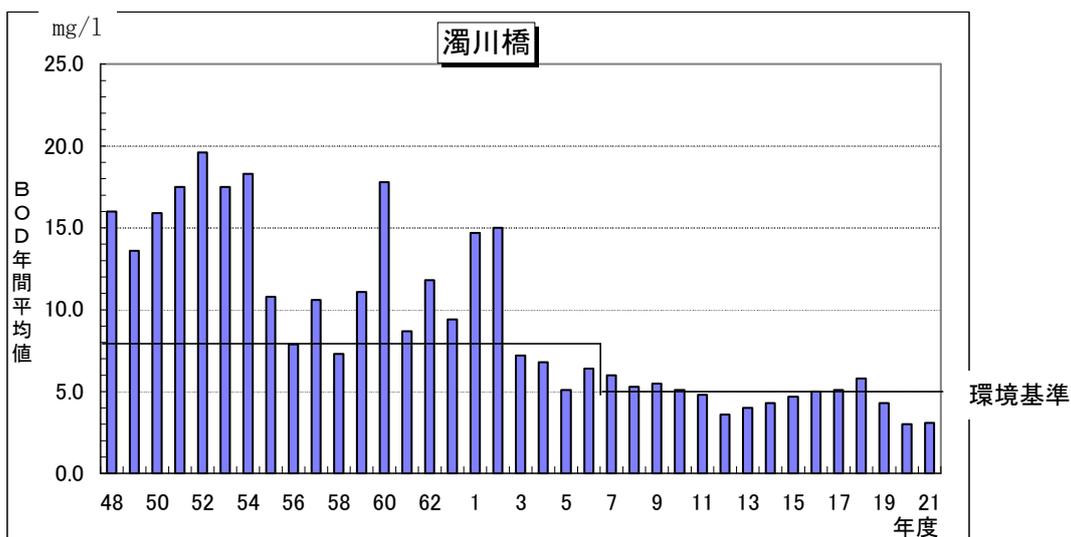
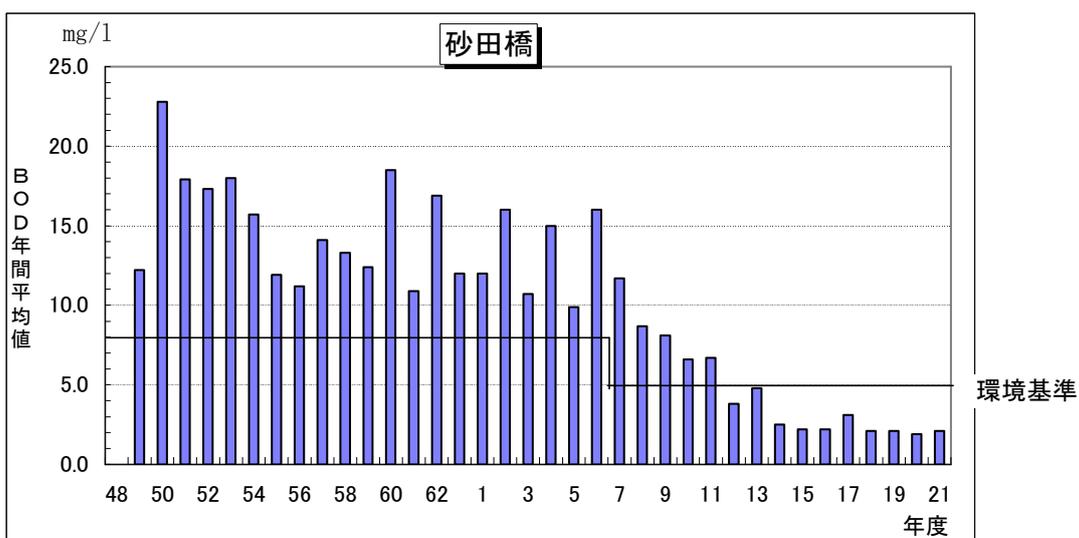


カ：濁川

甲府北部から東部を南流している典型的な都市型河川である。平成7年度からは環境基準C－ハ類型（BOD 5.0mg/l）に見直され、結果は、BOD年間平均値で砂田橋2.1mg/l、濁川橋3.1mg/lであった。

この水域は、県内で最も生活排水による有機性汚濁が進んだ河川であったため、県は平成5年2月25日、この流域を生活排水対策重点地域に指定し、甲府市は、生活排水対策推進計画を定め総合的に対策を推進してきた。

その結果、流域の水質は顕著に改善し、県内で最も水質改善が進んだ河川となっている。

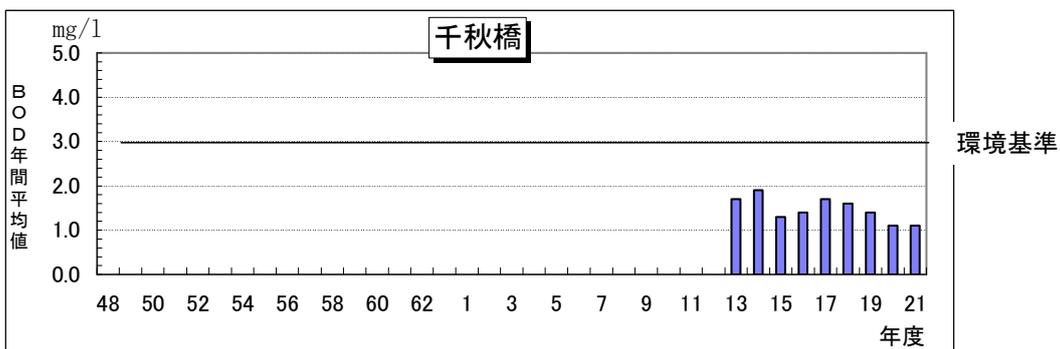
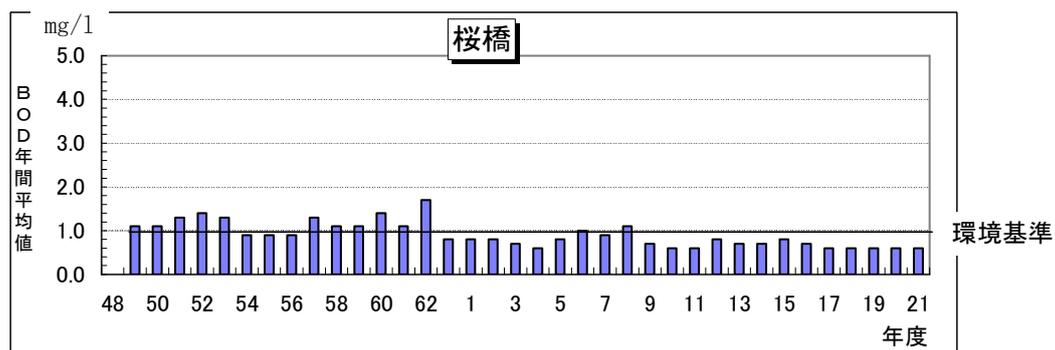
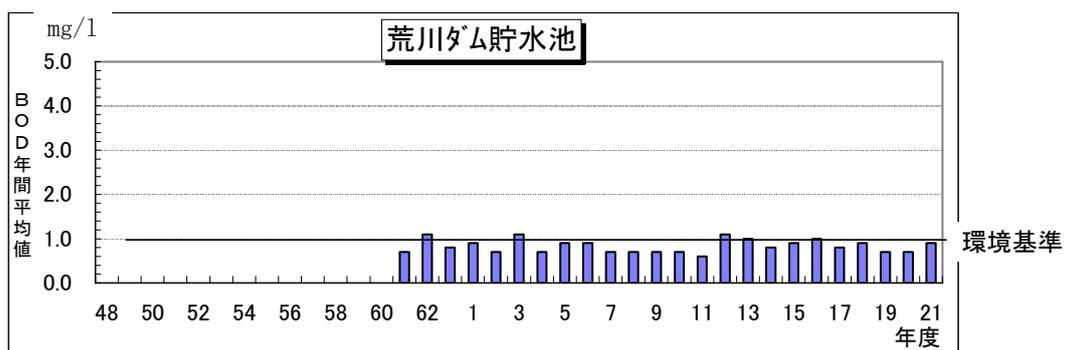


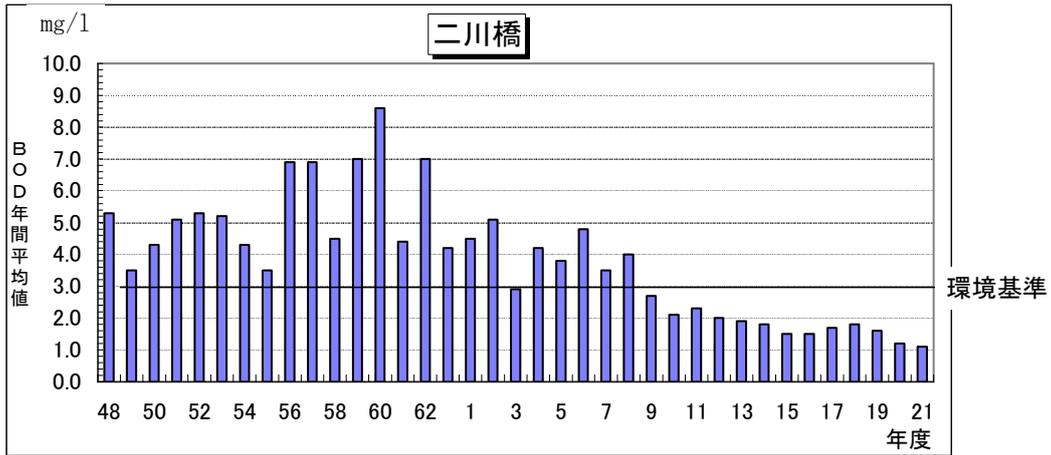
キ：荒川

甲府市内を南流する都市型河川である。環境基準は、上流はAAーイ類型（BOD 1.0mg/ℓ）、下流はBーハ類型（BOD 3.0mg/ℓ）があげはめられており、結果は、BOD年間平均値で荒川ダム貯水池0.7mg/ℓ、桜橋0.6mg/ℓ、二川橋1.2mg/ℓであった。

また、平成13年度から、荒川の代表的な支流である貢川と相川が合流した後の千秋橋を補助点に追加し水質調査を実施しており、BOD年間平均値で千秋橋1.1mg/ℓであった。

荒川流末の二川橋のBOD値は、近年低下傾向にあり、環境基準も安定的に達成している。荒川も、水質改善が進んでいる河川のひとつである。





ク：鎌田川

都市開発が進んでいる流域である。環境基準はB－ハ類型（BOD 3.0mg/l）があてはめられており、結果は、BOD年間平均値で高室橋1.4mg/l、鎌田川流末1.7mg/lであった。

